

『未来共創』投稿規定

1. 投稿資格

大阪大学大学院人間科学研究科に所属する教員と学生、未来共創センターと関連のある団体や個人(大阪大学オムニサイトの連携団体など)、未来共創センター主催の研究会に参加している教員および大学院生(研究科を問わない)、未来共生イノベーター博士課程プログラムの教員と大学院生、その他編集委員会が適当と認めた方が投稿できます。

2. 審査・校閲

論文については、編集委員会が選出した複数の査読者による査読結果に基づき、編集委員会が掲載の可否を決定します。

論文以外の原稿の校閲に関しては編集委員会が行い、その結果に基づき、改訂・修正の可能性があることをご了承ください。投稿された原稿の掲載の可否は、編集委員会が決定します。

3. 原稿形式

原稿は、マイクロソフト・ワードで読み込み可能な形式で作成してください。写真・図表は、執筆者がパソコンで作成・編集したものを、本文とは別のファイルで提出してください。

4. 原稿送付について

未来共創センター・ジャーナル事務局宛に、メールの添付ファイルで締め切りまでに送付してください。草稿ではなく完成稿をお送りくださるようお願いいたします。なお、文字化けする可能性のある特殊な文字、記号を使用する場合は印刷済み原稿1部とともに、原稿のデータファイルを記録した各種電子メディア(CDR対応・WindowsならびにMacintosh対応)を、事務局宛に郵送してください。一旦ご提出いただきました原稿は返却いたしません。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2

大阪大学大学院人間科学研究科 未来共創センター 『未来共創』編集委員会 事務局

TEL : 06-6879-4050 (内線 4050) E-mail: miraikyoso_journal@hus.osaka-u.ac.jp

5. 原稿の区分と枚数

本誌には、広い意味での「共創」や「共生」にかかわる「論文」「研究ノート」「フィールドワーク報告」「書評」「エッセイ」等の区分を設けます。また、原稿の区分ごとに、下記のとおり、文字数制限を設けます。分量には、図表・注・参考文献なども含まれます。なお、新たに区分を設けるときには編集委員会の審議を経て決定します。

論文(査読有り)	12,000~25,000 字程度(英文: 6,000~12,000 語程度)
研究ノート	10,000 字程度(英文: 6,000 語程度)
フィールドワーク報告	5,000~10,000 字程度(英文: 6,000 語程度)
書評	2,000~3,000 字程度(英文: 1,500 語程度)
エッセイ	2,000 字程度(英文: 1,000 語程度)

6. 研究倫理について

本誌に投稿される「論文」および「研究ノート」の原稿が、1)「ヒトを対象とする研究」、2)「ヒト遺伝子情報を含む研究」、3)「実験動物を用いる研究」である場合については、専門分野の倫理規定に従って、研究機関の当該の倫理委員会で審議され許可されていることを「方法」に述べてください。なお、何らかの理由により「方法」に述べられない場合については、投稿時に編集委員会に申し出ることとします。

7. 使用言語について

使用言語は日本語および英語とします。その他の言語は受け付けておりません。英文原稿を提出される場合は、英文校閲を受けた後、英文校閲の証明書も合わせて提出してください。(英語が母語の方の場合は、英文校閲証明書は必要ありません。)

8. 構成

論文：題名、要旨、キーワード、目次、本文、注、参考文献、英語題名、英語要旨、英語キーワード

研究ノート：題名、要旨、キーワード、目次、本文、注、参考文献、英語題名、英語要旨、英語キーワード

フィールドワーク報告：題名、キーワード、目次、本文、注、参考文献

書評：編・著者名、書名、副題、版数、出版地、出版社、刊行年、総頁数、定価

エッセイ：題名、本文

※ 英文で提出する場合は、日本語の題名・要旨・キーワードは、必要ありません。

9. 要旨

論文と研究ノートについては要旨を提出してください。

要旨：400～500字程度（英語要旨の場合、300語程度）とします。

英語要旨：300語程度とします。

※ 英文で提出する場合、日本語の要旨は必要ありません。

10. 様式

1) 原稿はA4判縦置き横書きとし、フォントは10.5ポイントとします。

2) 題名の下に、氏名・所属・連絡先（電子メールアドレス）を明記してください。

3) 本文中の見出しは、章は1、節は1.1、1.1.1の順とします。

4) 使用言語を日本語とする場合、論文および研究ノートでは、題目・キーワードに英訳、英文要旨を付記してください。

5) 文中の数字はすべて半角とします。日本語における句読点は「、」「。」(全角)を使用してください。

6) 図表の題目は、原稿中の図表の差し込み位置に記載してください。図表は、各々通し番号(表1、表2、図1、図2)をつけてください。

7) 文献引用・参考文献などの記載形式は、基本的に以下の記載方法に準じてください。

文献引用・参考文献の記載方法

<文献引用>

文献引用は、本文中に（著者名 刊行年：頁数）と表記するか、あるいは後注にて示すこととします（括弧は全角、スペースは半角）。

***本文中に表記する場合の例**

…である（栗本 2008: 65-66）。

栗本（2008: 65-66）は…と指摘している。

（Koizumi 2005; ヒベイロ 2007）

（栗本 2006; 2008） 同一著者による複数の論文・著者を参照する場合

***後注で表記する場合の例**

本文中で引用する文献について、書誌情報を後注で示す場合には下記例に倣って表記し、「前掲書」「op. cit.」の使用を避けてください。「同書」「同頁」「ibid」は、著者名を併記する等、指示文献が明確にわかるように表記してください。また、後注で示した場合でも、末尾に参照文献一覧を付してください。繰り返し同一論文を引用する場合、略称を使用することを認めます。

著者の場合 編著者『表題』（出版地ないし出版社）発行年、巻数、頁。

日本語著者の場合、「出版地」を省略してもよい。

論文の場合 著者「表題」『雑誌名』巻号（発行年）頁。

<参考文献>

参考文献は、使用言語ごとに区分して一覧表示してください。日本語文献の配列は、著者名（姓）の50音順とします。日本語以外の言語によって書かれた文献の配列は、著者名（姓）のアルファベット順とします。同一著者の文献が複数あれば刊行年順に列挙してください。

■雑誌論文

栗本英世

2006 「戦後スーダンの政治的動態—包括的平和協定の調印から一年を経て」『海外事情』54(4): 77-92。

Koizumi, Junji

2005 Pluralizing Anthropology. *Anthropology News* 46(7): 9.

Morita, Atsuro and Gergely, Mohácsi

2013 Translations on the move: A review essay. *NatureCulture* 2: 6-22.

■論文集所収の論文

栗本英世

2008 「教育に託した開発・発展の夢——内戦、離散とスーダンのパリ人」石塚道子・田沼幸子・富山一郎編『ポスト・ユートピアの人類学』pp.45-69、京都：人文書院。

ヒベイロ, グスタボ・リンス

2007 「複数のグローバル化——代替的な（ネイティブに代わる）トランスナショナルな過程と行為者たち」久保明教訳、小泉潤二・栗本英世編『第3巻 トランスナショナルリティ研究』（「インターフェイスの人文学」研究報告書 2004-2006）

pp.49-108、大阪：大阪大学 21 世紀 COE プログラム「インターフェイスの人文科学」。

Malkki, Liisa H.

2001 Figures of the Future: Dystopia and Subjectivity in the Social Imagination of the Future. In E. Kurimoto (ed.) *Rewriting Africa: Toward Renaissance*, pp.239-261. JCAS Symposium Series 14. Osaka: JCAS, National Museum of Ethnology.

■単行本

栗本英世

1996 『民族紛争を生きる人びと——現代アフリカの国家とマイノリティ』京都：世界思想社。

Hartigan, John

2015 *Aesop's Anthropology: A Multispecies Approach*. Minneapolis: University of Minnesota Press.

Daston, Lorraine (ed.)

2004 *Things That Talk: Object Lessons from Art and Science*. New York: Zone Books.

■翻訳書

ギアツ, クリフォード

2002 『解釈人類学と反=反相対主義』小泉潤二編訳、東京：みすず書房。

■Web サイト

環境省編

2013 「環境白書・循環型社会白書／生物多様性白書 平成 25 年版」
<http://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h25/index.html> (2013/10/17 アクセス)

United Nations

1977 U.N. Doc. S/PV. 2046, 4 November 1977
<http://www.un.org/en/documents/ods/> (2013/10/17 アクセス)

上記以外の場合は、各分野の標準的な記載方法に従うものとします。

1 1. 提出にあたる注意事項

大学院生による投稿の場合、必ず指導教員の承諾を受ける必要があります。指導教員の承諾署名欄を設けた提出書を準備していますので、これを合せて提出してください。

※「提出書」は、未来共創センターのジャーナル『未来共創』のホームページよりダウンロードしてください。
(<https://www.hus.osaka-u.ac.jp/mirai-kyoso/ja/journal/>)

1 2. ウェブサイトでの公開

本誌はオンライン・ジャーナルの形式をとります。原稿はジャーナル『未来共創』のウェブサイトに掲載されます。また、すべての原稿は原則として「大阪大学機関リポジトリ OUKA」、および J-STAGE に

て公開するものとします。

ジャーナル『未来共創』 <https://www.hus.osaka-u.ac.jp/mirai-kyoso/ja/journal>

大阪大学機関リポジトリ OUKA (桜華) <http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/>

J-STAGE 『未来共創』 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/miraikyoso/-char/ja>

2013年10月18日制定

2013年10月22日改訂

2014年11月19日改訂

2015年5月26日改訂

2016年12月15日改訂

2019年7月29日改訂

2020年7月29日改訂

2020年11月9日改訂

2022年10月13日改訂

2023年7月4日改訂